

## 1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、あらゆる差別をなくし、自他の生命を尊び、知性・感性・道徳性・体力に富む、心身ともに健康な児童を保護者・地域と協働して育てる。そのために自ら学び、考え、行動する力や個性を伸ばし、思いやりと規範意識を培い、共生社会を生きる上での基礎を育てる学校教育を推進する。

○進んで学ぶ子                      ○心やさしい子                      ○たくましい子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○児童と共に                      ・ ・ ・ 知・徳・体の調和のとれた児童を育成する学校 ○家庭・地域と共に              ・ ・ ・ 保護者・地域と協創する学校 ○全教職員と共に                ・ ・ ・ 組織として教育力を発揮する学校
○児童・生徒像	◎新学習指導要領への移行を踏まえ、知・徳・体の調和のとれた生きる力を身に付ける。 【進んで学ぶ子】基礎的な知識及び技能を身に付けるとともに、主体的対話的な深い学びや問題解決的学習、体験的学習を通して、思考力・判断力・表現力等を身に付ける児童 【心やさしい子】あらゆる差別をなくし、規範意識をもって規則正しい生活習慣を確立するとともに、いじめをしない・許さない、思いやりの心で誰とでも接し、自分を大切にする児童 【たくましい子】暑さや寒さに負けず、日常からよく遊ぶとともに、運動が好きになり、投力などの体づくりの運動に取り組み、基礎的な体力を向上させ、我慢強い児童
○教師像	◎目指す学校の実現に向け、校長のリーダーシップのもと、指導・事務・施設など人的・物的な教育環境の充実に組織的に取り組む。 ・教育公務員としての使命の自覚、サービスの厳正、危機管理意識、人間性を向上させる教職員 ・研究、研修の日常化を図り、情熱をもって指導し、自らの指導力を高めようとする教師 ・保護者や地域の方々と円滑なコミュニケーションを図り、信頼されるよう努める教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 【学校の現状】

開校18年目を迎え、地域に支えられている学校である。学区域外通学（約16%）及び外国籍児童（20名超）がやや増加する傾向にある。区域内にある商店街や4大学との連携した教育活動が盛んで、保護者・地域が一体となった活動が充実している。校舎の改築や校庭芝生化など保護者から要望が上がっている。

### 【前年度の成果と課題】

- ①区学力調査の通過率・正答率は国語が横ばい、算数は学年により差がある。都の調査は前年度並み、国の調査はB問題の正答率が上昇。極端な学力低位層も散在し、外国籍児童と併せて個別の対応が必要。
- ②基本的な生活習慣の定着率は約8割。自己肯定感の傾向を把握する調査では前年度より微増。
- ③休み時間等によく遊ぶ。運動能力・体力調査は区の平均並み。
- ④就学前施設が毎年20園を超え、子供の交流園が増加している。新しい保育園等との連携を広げている。
- ⑤児童は素直で明るい。特別支援学級の児童に対しても優しく接している。
- ⑥アレルギー対応児童が30名（エビペン6名）。保護者との綿密な連携、安全な給食の提供に努めている。
- ⑦教員は入れ替わりの時期で、育休代替教員も多く、校内研究等を通し教育水準の維持向上に努めている。
- ⑧教育への関心が高い保護者が多く、PTA、各ボランティア、おやじの会等、様々な面で協力的である。
- ⑨商店街をはじめ地域の方々も児童の体験学習や行事のために支援していただいている。
- ⑩4大学と連携、中学校と連携した教育活動に取り組んでいる。

## 4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		29	30	31	32	33
1	学力向上（基礎的な知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力等）	◎	◎	◎	◎	◎
2	約束を守り、思いやり、自分を大切にする心の醸成（規範意識・いじめの根絶・自己肯定感）	◎	◎	◎	◎	◎
3	体力・耐性を育てる（運動への意欲と体力、頑張る気持ち）	◎	◎	◎	◎	◎
4	異校種（保育園・中学校）と連携した教育を進める	○	○	○	○	○

## 5 平成31年度の重点目標

**重点的な取組事項－1** 学力向上（基礎的な知識及び技能、思考力・表現力・判断力、学びに向かう力）

### A 今年度の成果目標

平成31年度区学力調査目標通過率（学校平均）

- ① 平成31年度区学力調査における目標通過率は、その学年の前年度の通過率と比べ、－3ポイント以内とする。また新2年生は目標通過率85%、全校では前年度と同程度とする。
- ② 都学力向上を図るための調査（5年）並びに全国学力・学習状況調査（6年）の結果については、教科ごとに平均正答率が前年度を上回ることを目標とする。

	国語	算数
	( )内は前年度	( )内は前年度
新2年	85.0%	85.0%
新3年	85.4%(88.4)	78.1%(81.1)
新4年	78.3%(81.3)	66.8%(69.8)
新5年	61.3%(64.3)	76.6%(79.6)
新6年	72.9%(75.9)	64.5%(67.5)
全校	77.8%	76.9%

### B 前年度の取組み内容

項目	具体的な方策
①個に応じた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>週3回、朝のパワーアップ学習（各15分間）に算数・国語の基礎学習を行った。</li> <li>週1回以上の放課後及び水曜日の放課後30分間、低位層の児童の補充学習を実施。</li> <li>夏季休業日に学力低位層対象の補習教室を10日間実施。（後半3日は全員対象）</li> <li>毎日の授業の中で一人一人が考える時間を設定し机間指導を実施する機会を確保した。</li> <li>レディネステストを行い児童の習熟度に応じた学習集団編成を行った。（3～5名）</li> <li>かけ算九九検定（2年生）、算数検定（4年）を担当と連携して実施した。</li> </ul>
②授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究の日常化を目指し、校内研究5回、外国語活動研修を10時間実施した。ミニ勉強会を開き、互いに授業を見合い指導力のアップを図った。</li> </ul>
③都や区の施策の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>「そだち指導」を充実させた。学習支援員の有効活用、学生ボランティアを積極的活用。</li> <li>「東京ベシックドリル」を年4回実施し、定着を図った。</li> </ul>

### C 前年度の成果と課題

#### ① 平成30年度 区学力調査 目標通過率

- 区調査の通過率では、前年比において国語－4.5ポイント、算数－0.9ポイントであるが、区全体が前年比、国語－4.1ポイント、算数－2.5ポイントを考慮すると国語は横ばい、算数は数値的には上昇しているが、学年間の差がある。また、PDを含め通過率50%未満の低位層が5%いる。
- 「そだち」指導対象児童（新4年18名、新5年16名）のうち算数対象の24名（4年15名、5年9名）の経年比較（29⇒30）を見ると、4年は57.9⇒68.8と成長が見られる。一方、5年は57.8⇒53.3と下がっている。

#### ② 都学力向上を図るための調査結果(5年)の経年比較

- 都の学力調査（5年生）では、国語・社会・算数・理科ともに都の平均を2～3ポイント上回り、ほぼ前年度並みである。

#### ③ 全国学力・学習状況調査結果(6年)

- 国の学力調査（6年生）では、正答率の都との経年比較を見ると、国語A（－3）、国語B（＋7）、算数A（＋3）、算数B（＋4）、理科（＋2）であり、国語・算数のいずれもB問題の正答率が上昇している。

#### 【課題と解決の方向性】

- 学力低位層（PD含め29名）の児童の個別指導が大きな課題であり、指導の場や時間の確保が必要。また、東京ベシックの確実な定着のため、朝のパワーアップ問題の工夫・改善。また「そだち指導」における4年生の学習内容の吟味が必要。

### D 今年度の目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策
別紙 「平成31年度 学力アクションプラン」参照		

<b>重点的な取組事項－2</b>	約束を守り、思いやり、自分を大切に作る心の醸成（規範意識・いじめの根絶・自己肯定感）	
<b>A 今年度の成果目標</b>	<b>達成基準</b>	
学習、生活のルールを守り、他人をも思いやる心をはぐくむとともにいじめをなくす。	毎月の学習・生活目標の達成度 80% 学年末のいじめの解消	
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>		
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>
①基本的な生活習慣（挨拶、忘れ物、廊下歩行等）の定着を図る。	・毎月の生活目標の達成目標を設定（83%）	・生活指導目標を具現化し、週ごとの重点目標を設定する。 ・長期休業後に「いきいきカード」活用
②いじめをしない、許さない心を培い、思いやる気持ちを育てる。	・保護者アンケートで「子供は学校が楽しい」という肯定的な回答が85%以上	・毎日、1回は子供どうしがよい点を発表する機会や場を設定する。 ・学期末に保護者アンケートをとる。
③児童の自己肯定感を高める	・「自尊感情の傾向を把握するための調査」を実施し、全校平均値（前年度 3.30）が 3.32 を上回る。また平均 3 未満の項目を減らす。（4→3） ※hyper-QU の活用	・自己肯定感が高まる機会や場の充実（千寿の郷訪問、商店街調べ、地域清掃、未就園児との交流場面など） ・児童のよさを見つける機会や場の確保

<b>重点的な取組事項－3</b>	体力・耐性を育てる（運動への意欲と体力）	
<b>A 今年度の成果目標</b>	<b>達成基準</b>	
・外遊びを奨励し、遊びを通して運動の機会を増やす。 ・全校実施の運動を決め、投力とともに体力の向上を図る。	・外遊びの定点観測 80%の児童 ・特定運動種目の2回調査と 10%増	
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>		
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>
①外遊びを奨励し、休み時間を確保する。	・学期に一度定点観測し、外遊びの人数 80%を目指す。	・学級ごとに約束をつくり、個人や集団遊びを計画的に実施する。
②運動が好きな児童を育てる。	・体育の時間を中心として、子供の技能を伸ばす工夫を図る。（器械運動）	・体育朝会を実施し、全校への周知を図るとともに、指導技術を学ばせる。
③学校全体での計画的な体力作りを実施する。	・長縄チャレンジ、短縄チャレンジ。自然教室等の開発	・年間を通して体力向上を図るための計画を立て実施する。＜自然教室含む＞

<b>重点的な取組事項－4</b>	異校種（保幼・小・中）と連携した教育を進める	
<b>A 今年度の成果目標</b>	<b>達成基準</b>	
・登校渋りを少なくする。 ・千寿桜堤中学校との連携を通して、進学数を高める。	・1年生の登校渋りを夏までに解消する。 ・高学年の登校渋りを卒業までに解消する。 ・前年度の比率より高くする。	
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>		
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>
①幼保小の取組	教員交流 2 回、園児交流 2 回以上	・保育体験、子供同士の交流機会の確保
②小中連携の取組	年 6 回＋α実施。授業研究 2 回	・児童と生徒の交流場面の開発
③学びの継続性	私立幼稚園、保育園への新規訪問	・幼稚園を訪問し保育公開の契機作り